

## 事後評価シート

調査研究課題名	英米における NPM 最新事情 ～ see から plan へのフィードバックの試み～
担当者	頼あゆみ、諸岡昌浩
当初目標と目標達成度	<p>NPM の考え方のポイントの一つは、「plan-do-see」のマネジメント・サイクルであり、中でも、see から plan へのフィードバックをどのように行っていくのかが今後の課題になると考えられる。そこで、本研究では、NPM 先進国である英米におけるフィードバックに関する取組みと課題を把握することにより、わが国の NPM 改革推進の参考とすることを旨とした。</p> <p>英米において活用されているマネジメント・システムやツールについて、背景にある NPM 型行政改革の意義や考え方とそれぞれのシステムやツールの位置付け、その内容や課題等について整理し、考察を深めることができた。</p>
調査研究内容の妥当性	<p>英米は NPM 型行政改革の先進国であり、1998 年の SR 体系の導入（英）1993 年の GPRA 制定（米）以来、様々なシステムやツールを考案しながら、効率的・効果的な行政経営を図ってきている。英米とわが国では政治や行政の仕組みが異なることから、英米のマネジメント・システムやツールをそのままわが国に適用することはできない。しかし、わが国の NPM 型行政改革はこれらを参考に進められてきており、今後の推進にも、英米で表れてきている課題や試行錯誤の最新事情は参考になり得ると考えられる。</p>
調査研究の仕組みの妥当性	<p>研究内容の選定に当たって有識者等の助言を得ることにより、適切なテーマを選ぶことができた。また、研究に当たっては、イギリスについては現地調査を行い、アメリカについては現地に詳しいコンサルタントの協力を得ることにより、文献調査以上の成果を得ることができた。さらに、報告書の取りまとめに当たっては、新潟大学大住荘四郎教授からの助言により、そもそもの NPM 型行政改革の意義、各マネジメント・システムやツールの位置付けや狙い等について、適切に整理することが可能となった。</p>
成果と活用（予定）	<p>英米の NPM 型行政改革の最新事情を整理するとともに、そもそもの NPM 型行政改革の意義や目的、そのために重要なことは何かなどを明快に提示できた。政策評価制度の運用を始めとして、わが国の行政改革の推進に当たって活用されることを期待する。</p>
その他	   

